



コラージュ・日比野英志

「では司会を代わらせていただきます」。昨年12月16日、10年度予算編成に向けた政府と民主党との意見交換会。冒頭の小沢一郎党幹事長のあいさつを終え、記者団が退出すると、政府側から民主党重点要望の説明を求められた細野豪志組織・企業団体委員長(38)はこう切り出した。

「小沢氏が再び立ち上がった小沢氏が再び立ち上がったのか」と政府批判をぶちまけた。「党の重点要望で年内編成にこぎつけた。小沢氏はどこを勝負とどこをみて前に出るかが分かっていて」。小沢氏の計算高さを評価する。

衆院静岡5区選出。28歳で初当選し当選4回。前原誠司国土交通相らのグループ「凌雲会」に所属、前原氏が05年に党代表になると役員室長を務めた。翌年、偽メール事件で前原氏が代表を退くと、後継代表に就いた小沢氏の元で引き続き役員室長を務めた。

西松建設違法献金事件で、小沢氏の公設第1秘書が逮捕

枝野幸男 元政調会長 (45) / **細野豪志** 組織・企業団体委員長 (38)

「おれもえらくなったよなえ。『無役』が記事になるなんて」。昨年9月の政権発定後、一切の役職に就かなかったことに着目する報道が相次ぐと、親しい議員に冗談交じ

された昨年3月、テレビの討論番組に出演し小沢氏を擁護する細野氏の姿があった。今夏の参院選での単独過半数獲得へ活を入れる小沢氏は、選挙対策の要となる組織・企業団体委員長に抜てき。党内で今「小沢側近」と目される。「政策では党内に優秀な人はいっぱいいる。小沢氏から吸収できるものを吸収したい。だが首相になるか、先のことほだれも分からない。必要なのは今の役割でという結果を出すかだ」。すでに小沢流を身につけつつある。小沢氏をばさんで対極にいるニューリーダーの一人が、民主党の枝野幸男元政調会長(45)だ。



正反対のニューリーダー

りにこう語った。小沢氏と意識的に距離を置き、党や国会の役職の打診はもちろん、組閣でも声がかからなかった。

93年に旧日本新党から初当選し、96年の旧民主党結党に参加した。当選6回。菅直人副総理兼財務相が党代表時代、政調会長を務めたほか、党憲法調査会長など政策面で実績を積んできた。自由な議論を好み、時に年長者にも厳しく意見する。秩序を重視する小沢氏の手法とは対照的だ。

03年の民由合併後も小沢氏との接点はほとんどない。直近で言葉交わしたのは3年前、07年2月。参院選の公認候補の出馬会見のため小沢氏がさいたま市内のホテルを訪れた。お互いに「(党)代表」「(増玉真運)代表」とよそよそしく呼び合った。

年が替わり、ようやく政権入りを果たすことになった。事業仕分けの統括役としての実績を認めた鳩山由紀夫首相は7日、首相補佐官に起用する考えを表明。仙谷由人国家戦略・行政刷新担当相は6日に電話で「本腰を入れて手伝ってもらおう」と伝えていた。

親小沢と反小沢。活躍の場を求める細野、枝野両氏のアプローチは180度異なる。参院選をにらみ小沢氏への存在感が日々高まる中、小沢氏への党内の複雑な思いもまた膨らむ。与党第1党が内包する「シン目」が消える兆しは見えない。

◇ おわり

中田卓二、白戸圭一、田中成之、野原大輔、野口武則、山田夢留、木下訓明、念佛明奈、田辺一城が担当しました。